

防除情報(病虫害情報 号外 第2号)

令和8年3月26日
神奈川県農業技術センター

令和8年度イネ縞葉枯病の発生予測と防除について

県内10地点の水田でヒメビウカ越冬世代虫密度を調査した結果、平均密度は38.6頭/9㎡(平年41.9頭/9㎡)であり、平年並でした(図)。

また、県内5地点の水田でヒメビウカ越冬世代幼虫を採集し、イネ縞葉枯ウイルス(以下「RSV」)の保毒虫率を調査した結果、平均保毒虫率は2.7%(平年4.2%)となり、平年よりやや低くなっています(図)。

越冬世代虫密度が平年並、RSV保毒虫率がやや低いこと、4月以降の気温が近年高くなる傾向にあることから、本年のイネ縞葉枯病発生量は、平年並と予想しています。

【防除】

水稻生育初期にRSVに感染すると被害が大きくなります。そのため、ウンカ類に効果のある育苗箱施薬剤を必ず施用してください。

また、田植前および作期を通して水田周辺の除草を徹底し、育苗箱施薬剤の効果が低下する時期には農業技術センターの病虫害情報等を参考に、適期に本田防除を行ってください。

【防除薬剤例】

【育苗箱施薬剤】

薬剤名	使用時期	使用回数	使用量
アドマイヤーCR箱粒剤	は種時(覆土前)～移植当日	1回	50g/箱
グランドオンコル粒剤	移植3日前～移植当日	1回	50g/箱
エバーゴルフオルテ箱粒剤	は種時(覆土前)～移植当日	1回	50g/箱
ブーンゼクテラ箱粒剤	は種時(覆土前)～移植当日	1回	50g/箱

【本田施薬剤】

薬剤名	使用時期	使用回数	使用量
アルバリン粒剤またはスタークル粒剤	収穫7日前まで	3回	3kg/10a
トレボン粒剤	収穫21日前まで	3回	2～3kg/10a

農薬に関する情報は、令和8年3月23日までの農薬登録情報に基づいて記載しています。

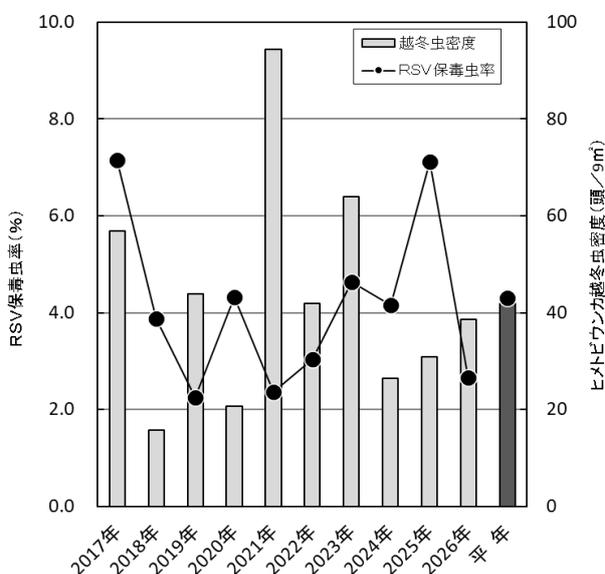


図 ヒメビウカの越冬虫密度及びRSV保毒虫率の経年変化

病虫害防除部

TEL 0463-58-0333

ホームページ

<https://www.pref.kanagawa.jp/docs/cf7/cnt/f450002/>

○農薬使用の際は、必ずラベルの記載事項を確認し、使用基準を遵守するとともに飛散防止に努めましょう。